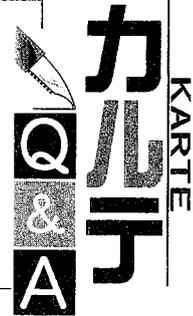


3年前から夏になると全身にじんましんが出るようになり、昨年からは夏が過ぎても続いています。皮膚科で処方された薬を服用していますが、1年中となればゾレア（一般名・オマリズマブ）という注射治療も検討中です。助言をお願いします。（36歳、女性）



## じんましん

じんましんの病態は、表皮の下にある真皮における血管浮腫（腫れ・むくみ）によるもので、皮膚自体には異常がないため、一般的に数時間、長くても24時間以内に痕を残さずに消えるのが特徴です。そのため、ステロイド剤のよ

うな塗り薬はあまり意味がな  
投与または2種類併用を行  
い、それでもなお症状が続く  
場合には、じんましんに対し  
ては保険適用外になります  
が、H2拮抗薬や抗ロイコト  
リエン薬を併用することが推  
奨されています。

それまでに服用していた内服  
薬の「上乘せ」での効果が期  
待される薬剤です。すなわち、  
それまでの治療で使っていた  
内服薬に加えてオマリズマブ  
の皮下注射を併用した結果、  
もし、じんましんが全く生じ  
なくなれば、「オマリズマブ  
が有効であった」と評価され

などの薬剤をうまく併用し  
て、長期的にじんましんが出  
ない状態を保つことが望まれ  
ます。  
（兵庫真医師会、原田 晋二  
西宮市、はらだ皮膚科クリニ  
ック）  
◇第1、3、4日曜に掲載  
します。

## 内服薬効かなければ皮下注射併用

く、第2世代抗ヒスタミン薬  
の内服が治療の第1選択とな  
ります。

にあつた「オマリズマブ」を  
検討することになります。  
オマリズマブとはアレルギー

ます。また、同様の用途で使  
用する「デュピルマブ」とい  
う注射薬もあります。

しかし、重症になると、1  
種類の抗ヒスタミン薬を服用  
するだけでは症状が続く場合  
も多いため、日本皮膚科学会  
のガイドラインでは、まず第  
2世代抗ヒスタミン薬の倍量

1反応を引き起こす免疫グロ  
ブリン（IgE）を阻害する  
抗IgE抗体製剤であり、月  
に1度皮下注射を行います。  
ただし、オマリズマブは単  
独で使用するものではなく、

慢性的なじんましんの治療  
は時間を要し、難治性のじん  
ましんの場合には、治療まで  
に最低数年間は治療の継続が  
必要です。治療に達するため  
には、内服薬にオマリズマブ